



各位

2023年4月25日

株式会社DNAチップ研究所
代表取締役社長の場亮
(コード番号 : 2397 東証スタンダード)
問合せ先 : 総務部 大塚 勉
電話番号 : 03-5777-1700 (代表)

「肺がん コンパクトパネル[®] Dx マルチコンパニオン診断システム」 (医療機器プログラム)の臨床検査センター受託開始のお知らせ

株式会社DNAチップ研究所(代表取締役社長:的場亮)は、2022年11月16日に製造販売承認を取得いたしました「肺がん コンパクトパネル[®] Dx マルチコンパニオン診断システム」(以下、肺がんコンパクトパネル)につきまして、国内主要臨床検査センターでの取り扱いが開始されたことを下記の通りお知らせします。尚、肺がんコンパクトパネル事業において、臨床検査センターは医療機関からの検体収集や報告書の提供、営業連携など非常に重要な役割を担います。今後、各臨床検査センターとの連携を更に強め、より円滑なサービスの提供を目指してまいります。

記

【取り扱い可能な臨床検査センター】

- ・株式会社ビー・エム・エル(受託開始日:2023年2月13日)
- ・株式会社エスアールエル(受託開始日:2023年2月13日)
- ・株式会社LSIメディエンス(受託開始日:2023年3月22日)

【今後の展開】

肺がんコンパクトパネルは、肺癌に重要な遺伝子(ドライバー遺伝子*1)に特化した遺伝子検査(医療機器プログラム)です。肺癌、特に非小細胞肺癌患者*2のコンパニオン診断*3として、代表的なドライバー遺伝子である4遺伝子(EGFR、ALK、ROS1、MET)の変異検出及び薬剤の適応判定の補助を保険診療により行うことが可能です。医療機関のご登録が出来次第、上述の臨床検査センター経由でご依頼いただけます。

また、昨年12月16日に提出した一部変更申請により、既に承認された4遺伝子に加え、新たにBRAF、KRAS、RETの3つのドライバー遺伝子の検査機能についての追加承認および保険適用を目指しております。引き続き、非小細胞肺癌におけるAll-In-Oneのコンパニオン診断を目指して、今後さらに上市される薬剤にも素早く対応してまいります。

最先端の遺伝子解析技術で医療現場のニーズに応えることで、患者様の治療成果とQOLの向上に貢献できるよう努めてまいります。尚、これらは本年度業績目標には織り込み予定です。

【解説】

1. 肺がんコンパクトパネルの特徴と開発経緯

DNAチップ研究所では、国内の臨床ニーズに応え、使いやすく精度の高いコンパニオン診断検査の提供をコンセプトに、次世代シーケンス技術*4による遺伝子パネル検査*5の事業化に取り組んでいます。その先駆けとして、奈良先端科学技術大学院大学と大阪国際がんセンターの共同研究成果をもとに、肺がんの代表的ドライバー遺伝子 8 種類に対するパネル検査「肺がんコンパクトパネル」の薬事開発を進めてまいりました。本検査の特徴としては、①複数の遺伝子を効率的に一括して測定できること(マルチ診断)、②FFPE 組織の保管期間などにより劣化した検体や、腫瘍細胞含有量がごく微量な検体も鋭敏に検出できること(高感度)、③液性細胞診検体にも対応可能であることであり、これまでの試験でその臨床的有用性が示されています。細胞診を対象とした性能については、聖マリアンナ医科大学との共同研究により、実臨床の細胞診検体を用いた臨床評価を実施してまいりました。高い成功率と、組織を対象とした既存の保険診療検査との十分な一致率が得られ、細胞診検体でもパネル検査が実施可能であることが示されています。現在、聖マリアンナ医科大学を中心とした多施設での共同研究により、有用性の再評価および施設間差の評価や、検体採取の標準化を進めております。

肺がんコンパクトパネルが、肺がん診療のアンメット・メディカル・ニーズ(いまだ満たされていない医療ニーズ)に応える検査として精密個別化医療のさらなる推進及び治療成績向上の一助となるべく努力してまいります。

2. 保険点数について現行の医科診療報酬点数表

D004-2 悪性腫瘍組織検査

1 悪性腫瘍遺伝子検査

EGFR遺伝子検査、ROS1融合遺伝子検査、ALK融合遺伝子検査については、

イ 処理が容易なもの 3項目 6,000点

MET ex14遺伝子検査については、

ロ 処理が複雑なもの 5,000点

合計11,000点

【用語解説】

*1 ドライバー遺伝子:

がんの発生や進行などに直接的な役割を果たす遺伝子。

*2 非小細胞肺癌:

肺がんは大きく非小細胞癌と小細胞癌に分けられ、前者は 85-90%を占める。

非小細胞肺癌は、腺癌が過半数を占め、ほかに扁平上皮癌、大細胞癌が含まれる。

*3 コンパニオン診断:

特定の薬剤(分子標的薬)が有効かどうかを判別するために、投与前に行う遺伝子変異を検出する検査。
たとえば、EGFR 遺伝子変異が検出されれば、その遺伝子変異に適した分子標的薬が投与され、その治療効果が期待されることになる。

*4 次世代シーケンス技術(Next Generation Sequencing; NGS):

核酸の塩基配列を決定し遺伝情報を解析する高度な技術。特定の遺伝子の変異解析を行う場合、同時に複数の検体を高感度、高効率に検査を行うことができる。

*5 遺伝子パネル検査:

複数の遺伝子変異を次世代シーケンス技術で同時に検出する検査。

以上

<本件に関する問い合わせ先>

株式会社DNAチップ研究所

E-mail: info@dna-chip.co.jp

東京都港区海岸 1-15-1 スズエベイディアム 5階

電話番号:03-5777-1700

FAX 番号:03-5777-1702

URL: <https://www.dna-chip.co.jp/>